

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2274202429		
法人名	(有)ドルフィン		
事業所名	グループホーム ドルフィン		
所在地	静岡県静岡市葵区桜町1丁目9番34号		
自己評価作成日	平成22年9月17日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kai-go-kouhyo-shi-zuoka.jp/kai-gosi-p/top.do">http://www.kai-go-kouhyo-shi-zuoka.jp/kai-gosi-p/top.do</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 しずおか創造ネット		
所在地	静岡県静岡市葵区千代田3丁目11-43-6		
訪問調査日	平成22年10月20日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者の家族との関係作りに力を入れ、家族・本人とも安心して暮らせる様支援している。家族の要望があれば、看取りも行い最期に家族・本人にとっての満足に近づけるように支援している。又、個別対応に心がけている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当施設は通所介護事業と共に、現在地に新設開所されて、5年目を迎えています。春には桜の咲き誇る、安倍川東岸に位置し、地域密着型サービス事業所として、利用者や家族から、厚い信頼と期待を得ている施設です。これは家族アンケートからも十分伺えました。施設内はバイタリティー溢れる施設長の元、明るく接する職員により、利用者の安心感有る日常生活が、垣間見られました。日常介護では、通所介護者との交流も見られ、日々の生活に彩りを添えています。特に近隣地域との関係が濃密で、常に近隣住民や町内会役員が声かけをしてくれ、温かく見守り、協力してくれている事が確認できます。防災の上からは近所に住む、職員の人数が多い事も、いざと言うの備えになっています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)		1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業者の理念に基づき、年1回職員研修で共有している。	理念は職員研修やミーティングを通じて、唱和されて、管理者と職員間で共有確認されています。プロ意識の確立が有り、常にスキルアップを目指す中で、日々のケアに理念が活かされています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に加入しており行事の時には参加する様になっている。(町内会ファイル・町内加入領収書)	地元地域との関係は濃密で、冗談が通じるほど、良い関係が築かれています。町内の行事には、積極的に参加をしており、近隣の方からは、常に声かけが有り、12月には恒例のキムチ作りが行われます。職員も近隣の方が多いようです。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	年1回ではあるが、認知症予防勉強会をしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	4ヶ月に1回を目標として、実施している。	運営推進会議は定期的に行われていて、施設の近況報告や事業案内など、交流の場も含めて、有意義に活用されています。前回もインフルエンザに関して、助言を頂いて、施設運営に活かしました。諸事情が有る中、家族の参加の増加を模索中です。	諸事情は有りますが、出来るだけ関係者の出席人数を増やす様、工夫をお願い致します。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	日頃から状況説明などを行い連絡を密にしている。	市の担当者からはメールや電話で連絡が有り、困り事や現況報告、入退所相談など、関係は築かれています。運営推進会議にはなかなか出席して頂けません。法改正時や、行政指導など、協力関係は築かれています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	理念の中に身体拘束の件を入れ、勉強会、研修時に周知している。	理念の冒頭で掲げていて、「身体拘束をしない具体的行為」は、管理者・職員に良く理解されています。施設内は、昼間施錠が無く、勉強会等を通じて、スピーチロックも含め、日常のケアの中でその徹底に努めています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	理念の中に入れており、研修も行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現状として、生活保護者にたいして、権利擁護導入時、配慮している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用者の家族と逢い、十分なコミュニケーションをとっている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱を設けている。ケアプラン作成時、家族に会い意見を聞いている。	設置されている意見箱には、意見は入っていない様ですが、利用者家族との面談時に、意見や要望は聞き入れられて、日々のケアに活かされています。又日常のミーティング等で、承知した意見や要望は記録され、運営に活かされていました。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティング時、話を聞いている。	ミーティングや申し送り等を通じて、職員の意見や要望は、管理者に良く届く仕組みが確立されています。職員間の人間関係も良好で、常に物事が言い易い環境の様です。先日、気付いた職員が、参考になる介護の本を購入してくれて良かったです。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	福利厚生面において等、勤めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	グループ別、実技研修を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部研修等に出来るだけ参加している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	新しく入居した方は、管理者が2日間ほど寄り添って関係作りを行っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前後 家族との時間をとっている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居相談時 通所介護・ショートなどの利用の説明を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常生活を一緒に考え、行動している。 (あたりまえの事をあたりまえに)		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族との連絡を蜜に取り、隠すことなくすべて話をしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	外出・面会において制限する事なくすべて話をしている。	手紙のやり取りや、電話掛けの手助けなど、なじみの人との関係を保つ様、工夫をしています。利用者のなじみの場所へドライブに行ったり、元の自宅周辺を回るドライブをしたりと、なじみの場所との関わりを大切にしていました。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日常生活におき、その制度支援に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も、家族とも連絡を取っている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ケアプランに反映している。	センター方式のシートを使用しており、定期的に聴取したり、日々のケアの中から職員が気付いた、思いや意向は、優先されていて、楽しく明るい生活が垣間見られました。限られた方ですが、秋には恒例のキムチ作りに参加して頂き、良い結果となっています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	申し送り時、適時職員に通知して、アセスメントをカルテに綴じている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	時々職員で話し合いを行い、アセスメントをしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	スタッフと担当者会議を開き、家族の方にも思いを聞く機会を定期的に行っている。	定期的に行われる担当者会議や、年2回の家族会議・日々に気付くケア上の課題など、意見やアイデアは計画に反映されています。「本人ノート」が作られて、職員間で共有されています。食事の工夫など、色々アイデアが寄せられて、良い結果を出しているようです。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個々の様子をなるべく詳細にノートに記入し、職員がその方の事を共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	体調不良時の受診の対応、付き添い等に柔軟に対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	本人が得意な部分を見つけ、職員が生活の中で楽しみを見つけるよう、支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月1回の定期的往診を行っている。	施設内には、常駐の看護師が居て、月2回の提携医の検診もあり、利用者の健康状態は、いつも把握されて、家族の安心な支援に成っています。家族の希望で、他の医療機関を受診する時は、誰でも付き添いが出来るよう、緊急用個人ファイルが作られていました。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職員が看護師に、その都度口頭及び個々のノートに記入し伝えている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	定期的に面会に行き、看護師に様子を聞いたり、家族と連絡をとっている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	定期的に家族との話し合いを行なっている。その結果を職員に伝えている。	重度化傾向は避けられない昨今、本人・家族との話し合いの中で、ターミナルケアについては、日頃から話し合いを持っています。過去には看取りの経験も有り、職員間で話し合いを持ち勉強をしています。対応は施設長やホーム長が、提携医の協力の元、行われているようです。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	勉強会を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	マニュアル作成し、職員がいつでも見ることが出来る所に置いてある。	9月には地域防災訓練、10月には消火器訓練と、防災を意識して、訓練を重ねています。職員は近隣の方が多く、非常時には素早く行動できる様に、連絡網を作っています。昨年8月の地震以降特に、近隣地域との連携も確認されているようです。	災害対策は、これで十分と言う事は有りません。夜間対応など尚一層の方策等、ご検討を期待致します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人格を尊重したプライバシーを損ねない言葉かけに配慮している。	一人ひとりの人格は職員間で共有されて、常に本人・家族の目線を持って、トイレ誘導や、お風呂入れなど、プライバシーと人格が尊重されています。特に、言葉による暴言や態度無視など、不適切な場合は注意をしているようです。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の思いや希望に近づける様に努力している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員の都合を優先しやすいが、出来るだけ入居者に寄り添った生活が出来る様努力している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	口腔ケア、頭髪を整えたり、化粧したい方には、声掛けや手助けをしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の仕度は難しいので、片付け等は手伝ってもらったり、メニュー等は希望を入れられるよう努力している。	利用者のリクエストも時には取り入れ、個人の好みも把握されて、日々の食事風景は季節感も有り、明るく楽しい風景でした。特に栗ご飯やタケノコご飯は好評で、食後に出るミカンや果物も楽しい風景を演出しています。食後は出来る人で、食器拭きをしていました。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量チェックをし、水分は定期的に配茶をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	定期的に食後に必ず口腔ケアを行なっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	時間誘導をしたり、時間チェックすることで、排泄パターンを知り、誘導 声掛けをしている。	各人の排泄パターンは、チェック表で把握されていて、早めのトイレ誘導が行われていました。出来るだけ、座る癖をつけ、自然排泄を心がけているようです。なるべくパンツ使用で、その人の自立力の継続を心がけています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	散歩や体操をする事で、腸の運動を促進させたり、ヤクルト・ヨーグルトを定期的に提供している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	出来るだけ本人の希望時間を取り入れ様になっている。	入浴は毎日の人も居て、時には1日に2回入る人も居、夜間対応も可能です。通所で使っていない時のヒノキ風呂は、特に好評で、一番風呂を楽しむ利用者もいました。もちろんホーム内の個浴も楽しんでいます。シャンプーは個人使用が可能ですが、常備品使用です。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	就寝時間も その人のペースにあわせて対応している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	看護師が服薬管理。又、副作用等スタッフに伝えている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	カラオケ・パズル・将棋等本人の希望のレクリエーションに取り組んでいる。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	車椅子の人が多いため、遠出は難しい事もあるが、出来るだけ戸外に1日に1回は出る様に心がけている。	施設の裏の土手が散歩道となっており近場の散歩を楽しみながら、地域の方とのふれ合う場となっています。コンビニ、スーパー等への買い物は利用者の楽しみです。施設の中庭では草取り、散歩、椅子に座り会話を楽しむ方達の姿も見られました。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現金に対してはトラブルになりやすい為、常時は預かっているが、買い物時は、利用者本人がやり取りするようにしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば、スタッフが電話をして、本人が会話できるように支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	花を飾ったり、まめに掃除を行い、散歩時に季節の花を頂いてきたり、買ったりして飾っている。	デイルームの窓は採光のため格子戸にし、カーテンはしない工夫がされています。玄関、廊下には季節の花が飾られ、御香を焚いたり、CDカセットで音楽を流したり、心地良い雰囲気です。小型犬のラブちゃんが利用者の癒しとなっています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	中庭のベンチや 近くにある川の土手などで過ごせる時間を作っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所時に話し合いをし、家族に協力してもらい、本人の思い出の品を持ってきてもらっている。	居室には洗面台が備えられ、工夫された物入れも置かれ時には椅子となり休む台として使用されています。馴染みの箆笥、仏壇等が置かれ、女性の部屋には歌手のポスターが飾られ、その人らしい居室となっていました。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	乱雑にならないよう 整理整頓をして、本人が出来る事は安全に行える様に見守っている。		